

「事業名:ドローン人材育成から始まる地域産業の活性化 たむらモデルの高度化・普及事業」
2019年度補助事業の実績・成果

慶應義塾大学 連携市町村:田村市

連携市町村との協定締結日:2016年12月21日 現地拠点:田村市都路町岩井沢185-1(ほか)

事業のポイント

ドローン(=新しいテクノロジー)の社会展開に先立ち、その担い手となる人材を養成することで、人材と産業を地域に定着させる地域活性化手法「たむらモデル」の実証事業。4年間に渡り、福島県立船引高等学校、市内小中学校での特別講座、事業社向け講習、市民向け講習など人材育成事業を展開。2018年3月には田村市に「ドローンコンソーシアムたむら」を設立し、地域のドローン人材育成と産業振興に貢献2019年4月からはドローン担い手が農業従事者に代わって農薬散布や圃場観察を行う「みんなで支える農業」プロジェクトをスタート。してきた。

今年度の活動実績

ドローン人材育成プログラムとして、福島県立船引高等学校でのドローン特別講座を軸として、基礎から専門性の高い技能を学べる機会を提供した。2019年度は地元産業の担い手として、農業の一部に従事した。また、技能評価指標として、米国NISTが提唱するSTM for sUASを導入し、より客観的な技能評価とそれに基づく講習を実施した。2020年にスタートする小学校でのプログラミング教育に先立ち、市内小中学校向けにドローンを用いたプログラミング教育を展開し、3校に提供した。加えて、持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえたプロジェクト型学習や能動学習と連動した「みらいの学び」型模擬授業を教員研修の一環として実施した。ドローン産業振興プログラムとして、インバウンド観光に焦点を当て、市内の名所等をドローンで空撮し、日本語・英語・中国語・タイ語の字幕を付けインターネットで公開した。編集前素材を含めて、誰もが利用できる映像素材として田村市の様子を全世界に公開している。ソーシャルイノベーションプログラムとして、新たに林業へのアプローチを始めた。上空で得られた情報から作業前安全点検を実施できるよう長距離の映像伝送に挑戦した。加えて、ドローン人材育成と産業振興が持続可能な発展に繋がるよう、地域での指導者の養成、地域課題とのマッチングによる共創機会の提供を実施した。

今年度の成果

たむらモデルの高度化を目指し、ドローン人材育成プログラムの高度化を行った。福島県立船引高等学校では「ドローン部」が本格的に活動を進めており、これまでの取り組みを元に自立した運営が行われている。今年度導入した米国NISTのSTM for sUASにより、練習メニューの多様化、技能レベルの定量的評価が可能となり、指導カリキュラムを大きく刷新することとなった。「みんなで支える農業」プログラムの実施により、ドローン等のツールで営農支援が可能であることを示すことができた。ドローン前提社会における「たすけあい」の一つの形であり、他の産業へのドローン導入の試金石とできた。「ドローンツーリズム」「ドローンプログラミング教育」「ドローンコンソーシアムたむらとの協業」は、人材育成後の担い手が活躍できる可能性をより広げる成果であった。観光・林業・義務教育の現場で、ドローン人材が活躍すると共に、それぞれの元来の従事者にもメリットがある「協働」の可能性を示したことは社会受容の推進にも貢献できたと考えられる。総じて、新しいテクノロジーの社会展開を機会と捉えた産業振興策として一般化する布石として、新たな知見を多く蓄積できた。

